

はじめに

平成28年度の国立岩手山青少年交流の家の事業も終了いたしました。いろいろな教育事業に参加いただきました皆様、当施設をご利用いただきました皆様、施設を応援いただきました地域の皆様、また、施設ボランティアとして活躍していただきました皆様方に感謝と御礼を申し上げます。

本年度は独立行政法人国立青少年教育振興機構としての第三期中期目標・中期計画のスタートの年でありました。新たな目標に向かっての取組みに職員一同で課題を共有し様々な事業に取り組んだ結果、過去20年の利用者数で最大値を記録することができましたことを改めて御礼申し上げます。

近年の、青少年を取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの自然体験や生活体験などの体験不足や体力の低下・生活習慣の乱れ、人間関係の希薄化など様々な課題が指摘されています。そのような中で機構として「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、北東北地域に立地する当施設を拠点として広大なエリアに国公立の青少年教育施設と連携して「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」運動を展開いたしました。特に本年度は「親子で行う体験活動」の事業を増やすことにより保護者の方々に「体験活動の必要性・重要性」を伝える理解増進のための取組みを行い、何れの事業も募集予定数を上回り好評をいただくことができました。

また、岩手県内においては東日本大震災を「風化させない」「忘れない」ために防災学習と復興する岩手を体験する事業「さんりく体験！発見隊」を地域力向上事業として岩手県立県南青少年の家と企画・連携することで、岩手県の将来を担う児童生徒たちに復興支援の一員となる意識を高めることができたものと思料いたしております。

加えて本年度は地元の滝沢市、岩手大学に次いで盛岡大学・同大学短期大学部と包括連携協定を締結することができました。同大学の学生は、これまでもボランティア活動、社会教育実習などを通して当施設の活動に参加いただいていたのですが、今後さらに地域に貢献する活動や人材育成などに取り組むことができるものと期待いたしております。

最後に、このような活動を行うことができますことも地元をはじめとする地域の方々のご理解あつてのものと思知いたしておりますので今後とも、当施設の事業運営につきまして、ご支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 松田 栄二